

表 - 2 「営巣中心域」及び「高利用域」推定のための現地調査内容

調査項目 調査時期 頻度 営巣中心域 高利用域 推定根拠	生態調査			環境調査	記録の収集に適した主な時期 及び調査を必要とする期間		備考										
	営巣地確認 調査 (生息概況調査)	繁殖状況 調査	行動圏 調査	自然環境調査 社会環境調査	繁殖期												
	11~3月および 7~9月に実施	3~8月に月2 回程度実施	年間を通じて月 1~2回実施	他調査時に併用 して実施	非繁殖期												
現地調査手法	踏査調査 定点調査				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
営 巣 中 心 域	営巣木の位置				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	成鳥の抱卵姿勢により特定
	古巣の位置																落葉期の確認が効果的
	交尾場所				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	巣周辺のとまり場に注目
	給餌物の解体場所																食痕位置の確認は容易
	監視のためのとまり場																巣周辺や対岸斜面に注目
	防衛行動確認場所																カラス等への威嚇行動
	巣外育雛幼鳥確認場所																顔から胸の白色羽毛が顕著
	巣のとまり場																通常観察での確認は困難
	営巣木・古巣を含む営巣可能な 樹種や森林構造からなる ひとまとまりの林分																空中写真や植生図等も利用
高 利 用 域	採餌行動確認場所				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	効果的な記録の収集
	主要飛行ルート				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	を図るためには良好
	主要旋回場所				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	な眺望地点の選定が
	主要止まり場				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	重要
	特徴的(指標)行動				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	平均出現頻度以上の 出現確認区域				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	区画別の出現集計数より 算定